

# 日本在宅 医学 会誌 Vol.14 No.2

## The Japanese Academy of Home Care Physicians

○巻頭言

地域包括ケアを見据えた在宅医療の役割 ..... 前田 憲志 1

○「特集」在宅医療連携拠点事業 (責任編集 坂本 仁)

在宅医療と社会保障と税の一体改革 ..... 坂本 仁 7

在宅医療推進における在宅医療連携拠点事業 ..... 大島 浩子 11

在宅医療連携拠点事業における国立長寿医療研究センターの役割について ..... 三浦 久幸 25

札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会「とよひら・りんく」の立ち上げと平成23年度の活動  
..... 五十嵐知文, 岡村 紀宏, 川村 爲美, 寺本 信, 中島 茂夫, 西澤 寛俊 31

在宅医療連携拠点事業—モデル事業の結果・抽出された課題および解決策について— ..... 山中 亮二 39

在宅医療連携拠点事業の取り組みについて ..... 渡邊 房枝 49

チームもりおかが目指すもの—迷える在宅医療連携拠点事業所— ..... 木村 幸博, 下地 直紀, 板垣 園子, 井川 斉 57

あおぞら診療所 平成23年度在宅医療連携拠点事業報告 ..... 川越 正平, 友松 郁子 65

医師会と訪問看護ステーションが中心を担う取り組み ..... 安東いつ子 77

在宅医療連携拠点事業を受託して—鶴岡地区医師会の取り組み— ..... 三原 一郎 83

行政主導による「在宅医療連携拠点事業」について ..... 井川 鋭子, 尾嶋 里子, 松森 浩之, 玉木 晴美, 亀井 宗子 93

○短報

糖尿病患者を受け持つ介護支援専門員と医療者の地域連携の実際 ..... 住吉 和子, 畑 吉節未, 中西代志子 99

日本在宅医学会雑誌投稿規定.....105 投稿承諾書.....106

連絡票.....107 査読者一覧.....108

編集後記.....109

## 巻頭言

# 地域包括ケアを見据えた 在宅医療の役割



日本在宅医学会 代表理事 前田 憲志

高齢化進展の対策として、地域での生活・介護・医療を包括して対応する「地域包括ケア」方式が打ち出され、医療計画にも、従来からの4疾病・5事業に精神疾患を加え、「5疾病・5事業と在宅医療」と明記され、本年は在宅医療元年と位置づけられました。

この方式を全国に遍く進展させるため、「在宅医療連携拠点事業」が昨年度より開始され、本年は105箇所の拠点に拡大され、急速な事業展開が進められています。これらの社会活動の変化に伴って在宅医療の事業範囲も大きく拡大し、その見つめる先も遠大なものになっています。前述の在宅医療連携拠点事業所、都道府県医師会ならびに行政担当者を対象に「多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業にかかる研修会」も開催され、具体的な実践方略が示されました。この様に国の方針も示され、法的にも在宅医療が明記されたことにより、「在宅医療は特殊な医療分野」ではなく、医療に携わるものとしては「普遍的な医療福祉分野」として、遍く提供し得る事が求められることとなりました。切れ目なく継続的に在宅医療を提供する体制をサポートするため、「在宅療養支援診療所・病院」制度が創設されましたが、24時間、365日体制で在宅医療を提供する状況に更に適した制度として、「機能強化型在宅療養支援診療所・病院」制度が発足しました。

日本在宅医学会としてもこれらの流れを踏まえて、リーダーとしての「在宅医療認定専門医」の養成を加速するとともに、既に開業されている医師に対する「地域包括ケア」における「多職種協働による在宅チーム医療」の教育研修や支援体制の充実を図っていく事が重要と考えます。そこで従来から行われている「大会」「生涯教育」においても「地域包括ケア」を踏まえた「実践的」なテーマを取り上げると共に、より参加し易い各地域での研修体制の整備や「機能強化型在宅療養支援診療所・病院」構築支援や在宅医療における「アセスメント入院制度」の構築支援など、在宅医や連携スタッフの負担を出来るだけ減らし、かつ効果的に在宅医療を推進し、さらに、在宅医療の共通基盤の整備にも役立つ方式の推進にも力を入れて参りたいと考えています。しかし、長年の実績のある病院医療や臓器別医療に比べ、在宅医療は本格的な稼働期間も短く、参加する医療スタッフもまだ少数で、かつ、疾病範囲は全身に及び、治療の難しい症例も多く、また、往診での空間的・時間的問題、「診療環境のハンデイ」などがあり、また、在宅医療を取り巻く環境には「足らざる事」が多くあります。しかし、「足らざる事は改善し得る余地があること」に他なりません。「足らざる事は何か、それを補う方法は何か」を「受益者の立場に代わって創出すること」がこの分野での主要テーマに成るのではないかと考えています。高齢化の進展に伴い、この領域は医療福祉の中で大きな分野に成長せざるを得ない必然が内在しています。在宅医療の現場は治療困難な病態の宝庫であり、基礎科学進歩を勉強しながら、洞察力と鋭い感性で仮説を立て診療に当たると共に、基礎分野に臨床成績からの情報を発信し、機序の解明や新しい治療法に繋げる事が重要であり、多くの方々のご参加を期待するものであります。